
猫さんといっしょ

田中 2 3 号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫さんといっしょ

【Nコード】

N0861Z

【作者名】

田中23号

【あらすじ】

小さな村の青年が、ちょっと大きめの猫っぱいなにかを拾ったことからいろいろなことに巻き込まれつつ、マイペースに歩いていく物語。

第一話「猫さんを拾った日」

突然ですが、大ピンチです。

なぜか目の前に見るからに肉食っぽい大きい猫がいます。

ちよつと森に入って薬草を摘んでいただけに・・・

こんな森の入り口にいていいレベルじゃないだろ！！

もつと森の奥に群れで棲んでるような感じでしょ君！！

・・・あ！

群れからはぐれたからこんなところに一匹でいるのか

なつとくなつとく・・・してる場合じゃないし！！

やばいやばい、まだ人生15年しか生きてないしまだ彼女もいた試しがないし最近やつと薬師の師匠で昔はお城勤めしていたすご腕薬師の婆様に「お前に教える事もなくなってきたねえ、うれしいけどちよつとさびしいねえ」とか言われてほろつときたり幼馴染のかわいいあいつが実は男だったっていうショックから立ち直りきれないし川遊びのときとかぜんぜん来ないで家でお勉強してるもんだから僕が12のころまで女だと思ってたんだよ小さいときにした結婚の約束とかどうするんだよちくしょおおおおおの純情をかせええええ勝手に学術国家の魔術学院なんかに行きやがって「僕のこと忘れないでね」とか涙目で上目遣いで手握られて舞い上が

「つたちよつと後に「ユウリ君はすごいわねえ、学術国家の学校に
いっちゃんなんて。さすがクエスとサラの息子よね」って村のおば
ちゃんに言われて「え？息子？」「そうよ？サラに似て綺麗だけ
ど。小さいころは一緒に川遊びしたことあるでしょ？」「え、あ、うん、
え・・・？本当に、息子？ってか男？」「なーに。やだ、今まで女
の子だと思ってたの？確かに綺麗だけど　お・と・こ・の・子・よ
と笑いながら言われてハートブレイクしたあのときから3年も会っ
てないのになんかまだもやもやしてるしあれけどそれって俺もしか
してまだあいつのこと・・・うほっ・・・？あああああああ
あ違う違うううううやっぱ今の無し俺は正常おれはせいじよ・・・
ああけどあいつかわいいよな、なんであれで男なんだ・・・あんな
にかわいいに・・・あれなんでこんなことを考えて・・・

「ハッ！！でか猫！！

って、あれ。

あの猫威嚇してるけど動いて無いし、弱ってる？

怖いけどなんかほっとけないし、少し近寄ってみるか。

「怖くないよー、怖くないよー」

言ってると思うけど犯罪チックな台詞だなこれ・・・

近寄っても飛び掛ってこないな。

って、うわ、なんじゃこりゃ、はひどい怪我だな。

うーん、手持ちじゃまともな処置ができません。

とりあえずさつき摘んだ薬草と、布と水は確かバツクにあったな。

「猫さんや。応急手当だけしちゃうから、ちょっと染みるけどできれば食べないでほしいな、なんて」

「ぐるるる・・・」

お？猫が威嚇の体制を解いたな。

言葉通じるほど高位の魔物がこの猫さん。

とりあえず大丈夫そうだし傷口を水で洗って薬草をちょっと揉んで布と一緒に巻きつけよう。

これでよしっ！

応急手当もしたし、あとはお持ち帰りするだけか、このくらいのサイズなら何とか抱えられるはず。

「猫さん、猫さん。とりあえず応急手当したけど傷が深いのででき

れば村に連れ帰ってちゃんとした処置をしたいんだけども。抱えて
よろしいか？」

「ぐる」

つと、一鳴き。

おーけーってことかな。

よし、おっもちつかえっりいいい！

なんとか抱えられるな。

けど残りの薬草は放置だなこりゃ。

村まで急ぎますかつ！

第二話「天使様をお願いされた日」

帰って着ました、おらが村。

その名も「サイ村」

でかい猫を抱えて猛ダツシュしてるのを見てみんな声をかけてくる
が返事をする暇はない。

急いで村の端にある我が家の納屋に藁を敷き詰め、猫さんを横たえ
て婆様のいる母屋に駆け足！

この時間なら部屋で薬草をぐりぐりしてるか、ことごとしてるな。

「婆様！でかい猫が森で怪我していたので連れ帰ってきました！傷
が深いので急ぎで診てもらっていいですか！」

「分かったわ、納屋かしら？」

「はい、寝かせてあります！」

婆様は一瞬だけ驚いた顔をするもすぐに立ち上がり、手当箱を持っ
て急いで納屋に向かい、猫さんを通り診てもらう。

「応急手当がよかったわね、新しい布と四番と十一番をお願い」

「わっかりました！布と四と十一ですね！」

また母屋まで走って診察室の棚から布と四と十一と書かれた引き出しの中の小瓶を持って引き返す。

あとは婆様の独壇場。

テキパキと治療するので、布を巻きなおすくらいしか仕事がなかったぜ・・・

「猫さんは何を食うかねえ？肉？とりあえず果物をもっていくか」

治療が終わり、猫さんが食べれそうなものを見繕って納屋に戻るも、猫さんご就寝中。

猫さんは、婆様も見ただ事聞いた事も無い魔物？だそうで。

どうしたものかと二人で考えるも、とりあえず元気になるまで面倒を見ようということになった。

「あとは僕が納屋に残って猫さんを見とくので、婆様は母屋で寝てください」

いつの間にか夜も更けてきたので婆様を母屋に返し、毛布に包まって猫さんの様子を観察する。

治療してから全然起きないので、起きたときに何か食べ物を与えないといけないし。

しかし、さすがに今日はいろいろあつたし、眠・・・い・・・。

「人の子よ。我が主の獣を助けてくれたこと、礼を言います」

めのまえに　しろい　なにか　が　あらわれた　！

夢か夢だよな。

なんか神々しいけど。さすが僕の夢だな。うん。

「夢ではないですよ」

「あ、はい」

えっと・・・どちら様でしょうか・・・？と言える雰囲気じゃないな！

「人の子は私達のことを天使と言います」

ああ、心も読めるんですね・・・

「はい」

って、天使様ですか、僕なんかしましたっけ、いや確かにあんまり
信神深くないけども。

ちゃんと巡教のシスターさんが来たときとか広場でお説教聴いてお
祈り奉げてますよ！

「先ほど言った通りです。我が主の獣を助けたでしょう。その礼を
言いに来ました」

・・・あ！

もしかして猫さんのことですか！

「はい。あれは我が主が作りだした獣の末裔です」

へえ

って天使様の主は神様の理論からいくと、猫さんってもしかして神獣・・・！？

「そうなります」

超VIPじゃないですか猫さん・・・

そしてレアだ・・・

なんでそんなすごい獣がこんな田舎の森にいるんだ！

しかも怪我してるし！

「元はアルバ大陸の霊峰サドンにいたのですが。生まれた直後に魔物が攫ったのです。怪我はそのときのものです。すぐに親の神獣が追ったのですが、追い詰められた魔物が苦し紛れに転送魔法でとばしたのです。」

なるほど。しかし神様が天使様がぱつと助ければ良かったんじゃない？

「天界に住まうものは、己の意思で世界に力行使することは、ほぼできません。世界に請われた時のみ行使できます」

なるへそ。大変ですね。

「なので人の子よ。我が主の獣をサドンまで送り届けてはくれませんか。親の神獣も己の領域を長く空けることはできません」

アルバ大陸ですか。送ってあげたいのはやまやまですが、ちょっと遠い上に僕は低位の魔物にもおくれをとりますよたぶん、そんなのが高位の魔物なんてとてもとても。

「もちろん、それなりのチカラを貸し与えます」

あれ、でも干渉はできないんじゃない？

「力の直接の行使はできませんが、我が主と私の祝福が与えられます」

神様と天使様の祝福・・・？ぐ、具体的にはどのような？

「我が主は癒しを、私は守護を司っていますので、人の子が祝福を受ければそのチカラを得ることができます」

おお、癒しに守護かー。それならなんとか・・・なるのか？

「神獣はまだ幼いですが別の神の祝福を受けております。癒しと守護の祝福があれば魔物程度退けられるでしょう」

むむ、分かりました。それではこの件お引き受けいたします。

「おお、礼を言います、人の子よ。祝福はそなたが起きたときにはすでに成されているでしょう。それでは、頼みましたよ」

あいさー、がんばりますよ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0861z/>

猫さんといっしょ

2011年12月3日06時03分発行